

街の魅力

文＝わかぎゑふ
Wakagi Efu

画＝浅妻健司

1981年から5年ほど東京に住んでいた。20代前半の頃である。芝居の勉強のために上京して、そのまま劇団を作ったり、就職したり、同棲したりしていたのだ。しかしどれもうまく行かず1985年に帰阪したのだった。

26歳の夏だった。彼氏と別れ、芝居にも疲れ、もう若くもないし(と思っていたが、まだまだ若造であった)ともかくちょっとほころびを抱えて帰って来たのだ。

ところが実家の母に連絡すると「帰ってこんどいて、来年の春まであんたの部屋ないで。人に貸してるねん」と言うではないか。古いアパートを経営していた母はなんと私の部屋を勝手に貸していたのだ。

ただでさえ凹んでいたのに「帰るところもないか」という追い打ちで私は本当にポロポロだった。

運良く昔のバイト先の友達が「うちにしほらく住んでもええよ」と言ってくれたので、転がり込むことになり、実家にも寄らず彼女と梅田で待ち合わせをする事になった。

それまでの約5年間、お正月に帰ったりしていたが、3、4日だったし、昔の友達の家に行くくらいで、街の様子なんか知らないままだった。今思えば頭の中が

すっかり東京ナイズされていたのだろう。

そんな私の目に飛び込んできたのは、梅田の地下街で歌って踊っている人たちだった。「え？なにこれ！なにしてるこの人たち」とキョトンとして見ていたら、友達がやってきた。

「あれなに？」と聞く私に彼女は「阪神ファンやん」と素っ気なく答え、喫茶店に入って行ったのだった。そう、1985年と言えば阪神タイガースが21年ぶりに優勝した年だった。私はあの異常な状態の大阪に舞い戻ってしまったのだ。それから「大阪ってこんなとこやったっけ？」と、大阪を再確認する生活が始まった。

街では阪神のユニフォームを着て歩いている人に「今日どうやった？」と見知らぬ人が平気で声をかける。それに対して「4対3で勝ったで」とみんな当たり前前に答える。最初は「通りすがりに、他人に声をかけてる」とドキドキしたものだ。

友達とミナミの居酒屋に入ったら隣のオジさんが「姉ちゃんら、これ食べるか？頼みすぎてん」と串カツを分けてくれた日もあった。「なんで？なんでなん？」と叫びそうになった。

就職した会社の課長がかかってきた電話に「毎度、

いやあ、ぼちぼちですわ」と大きな声で挨拶しているのを聞いて「毎度って言うた！ぼちぼちですわってほんまに言う人居るんや」と驚いたこともある。

信号を渡っただけなのに知らないお兄さんから「飴ちゃん食べる？」といきなりキャンディを手渡されたこともあった。「なにこころ？こんなとこなん大阪って??？」と走り回りそうになった。

それに転がり込んだ友達のアパートが日本一物価が安いと言われてる千林だったので、買い物に行くことと東京とあまりにも値段が違うって外国に住んでいるような錯覚に陥った。「え？大根一本30円やん？なんで？このサンマも一匹70円やて。どうなってるん？ここの本？」という感じだ。

そうやって毎日驚きながら生活して2ヶ月後に阪神が優勝し、ただでさえ賑やかな大阪の街が本気のお祭り騒ぎになった。道頓堀に人が次々ダイブして、どの店でもただ酒をふるまっている。優勝した日にちょうど梅田に居た私は何十回「六甲おろし」を聞いただろうか。帰ってテレビをつけてもどの局も優勝を祝う番組しかやってない。全部同じ画面だった。あんなことは中学生の時に見たあさま山荘事件以来だったろう。

次の日、何版目だったか知らないが辛うじてスポーツ新聞を買って会社に行ったら「おおお！買ったんか！ようやくた」と新聞を持ってただけで英雄扱いされ、営業部長に呼び出されて「君か！新聞を手に入れた社員は。ようやくた！」と褒められた。

しかもなんとその年に親友が、甲子園の外野席で知

り合った男性と結婚し、披露宴でウエディングドレスの上からハッピを着て歌っていた。「嘘やろ」と思ったが、今も仲の良い夫婦である。

東京は確かにメガシティだ。国賓が来日したら道が封鎖されたり、地方にはあり得ないイベントが当たり前にあたり、いかにも首都だった。しかしどこことなく人同士は遠い。知らない人に声をかけたりはしないし、バカ騒ぎは学生がするもので、大人はクールだった。

それに対して大阪の人たちは生きること、喋ること、楽しいこと、美味しいものになんとエネルギーを使っていることか。しかも大人が本気で。そんなわけで1985年以降、私はすっかり大阪人のファンになったのである。

30歳になった時「東京に5年、大阪に戻って5年、どこか他の街に住んでみようかな」と一瞬思ったことがあったが、「いやあ、まだまだ発見多いからなあ、大阪って」とすぐに止めた。

あれから30年。日々形は変わってはいるが、大阪の魅力は尽きない。それは「人」によって生み出されるものだ。街は人が創るもの、大阪に住んで発見したことである。

わかぎ・ゑふ 1959年、大阪府生まれ。作家・演出家。劇団「リリパットアーミーII」二代目座長。芝居製作処、玉造小劇場主宰。2000年に大阪市女性協会きらめき賞、2001年に大阪舞台芸術奨励賞、2011年に第11回バックカズ・ファンデーション演劇奨励賞を受賞。『正しい大阪人の作り方』など、エッセイ本も多数。NHKの『リトル・チャロ』シリーズの原作もつとめる。

